

# 岩手県環境基本計画（平成 28 年 3 月改訂版）のあらまし

岩手県では、環境の保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、岩手県環境の保全及び創造に関する基本条例に基づき平成 22 年 12 月に策定した岩手県環境基本計画を改訂しました。

## ■環境問題の現状

### ●地球温暖化問題

地球温暖化は、社会経済活動に様々な悪影響を複合的に生じさせる可能性が指摘されており、人類の課題として取り組んでいく必要があります。

### ●廃棄物問題

資源の制約や廃棄物を受け入れる環境の容量の制約を考え、廃棄物の発生抑制や資源の循環利用の取組をさらに進める必要があります。

### ●多様な自然環境の保全

生物多様性は、様々な恵みを人間にもたらす源泉であるとともに、人間のみならず、すべての生物の生存基盤となることから、生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する取組を進めていく必要があります。

### ●生活環境、景観や歴史的文化的環境の保全

澄んだ大気や水、美しい景観等は、本県にとってかけがえのない価値であり、「ゆたかさ」の象徴ともなっていることから、将来にわたり守りはぐくんでいく必要があります。

### ●環境を守るための行動と環境を守り育てる産業の振興

環境問題は、その多くが人間の活動に起因するものであり、規模や範囲も身近な生活環境から地球環境問題まで複雑多岐にわたっています。このため、環境保全のために自ら行動を起こすとともに、環境との調和や環境視点で社会経済活動を行う必要があります。

## ■計画の基本目標

平成 11 年に策定した岩手県環境基本計画（計画期間 平成 11 年度～平成 22 年度）の成果と課題、環境問題の現状を踏まえ、持続的発展が可能な社会を構築していくことを計画の基本目標とし、施策を展開していきます。

### 基本目標

### みんなの力で次代へ引き継ぐいわての「ゆたかさ」

#### ・みんなの力で…

私たち県民一人ひとりが、自らの行動により、環境問題の解決に向けたたゆまぬ努力を続けていくことが大切です。

#### ・次代へ引き継ぐ…

私たちの子や孫の世代も、恵みを享受し、この地に住み続けることの幸いを実感できるよう、社会の発展の姿を持続性あるものへと変えていくことが大切です。

#### ・いわての「ゆたかさ」…

本県の自然環境や大気・水環境、景観、歴史文化等の豊かな環境を保全していくとともに、本県に豊富に存在する森林等の地域資源を適切に活用しながら、恵み豊かな環境と人間の営みが両立する岩手らしい「ゆたかさ」をはぐくんでいくことが大切です。

### 計画期間

平成 23（2011）年度 ～ 平成 32（2020）年度（10 年間）

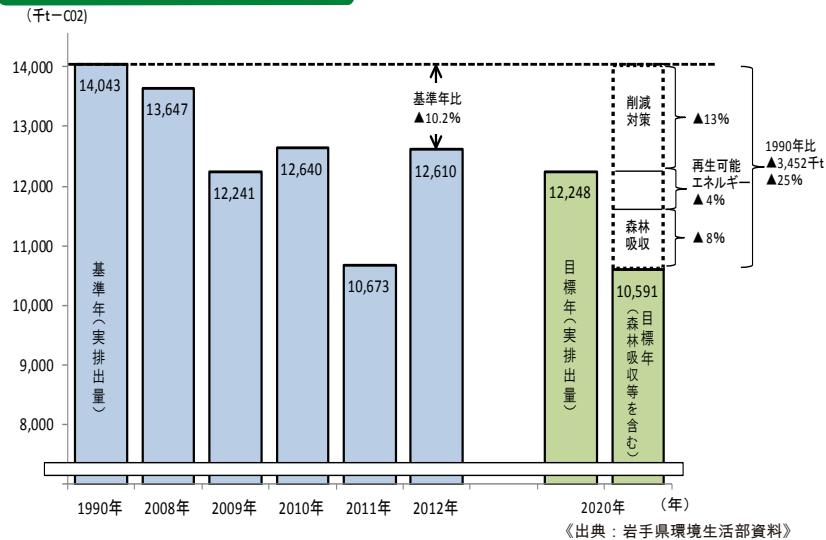
## ■施策の方向

## I 低炭素社会の構築

ライフスタイルや社会システムの転換等により、二酸化炭素等の温室効果ガスを可能な限り排出しない社会の構築を目指します。

主な指標	現 状 (H21 年度)	目 標 (H32 年度)
温室効果ガス排出削減割合(%) (基準年：H2(1990)年)	(H19) 0.9	△25

【図 1 岩手県内の二酸化炭素排出量】

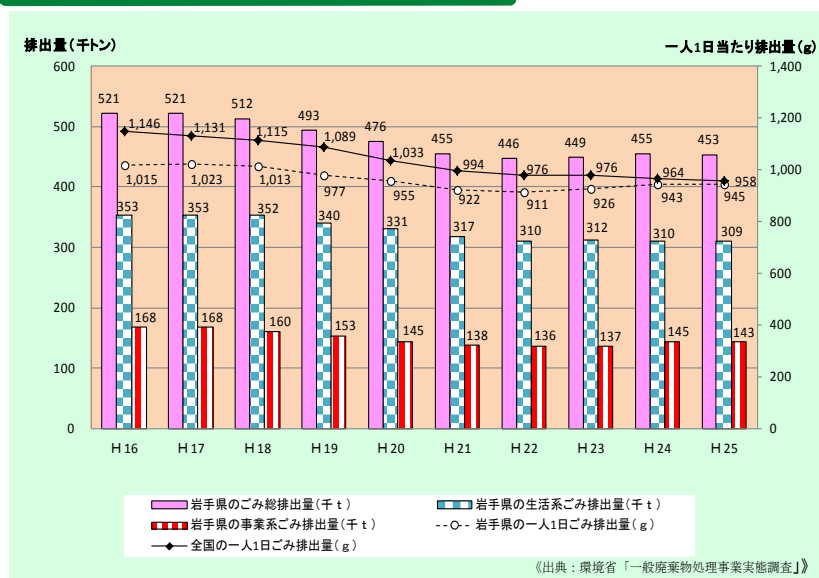


## Ⅱ 循環型社会の形成

3Rの推進等により、ごみを減らし、限りある資源を大切にし、できるだけ循環させる社会の形成を目指します。

主な指標	現 状 (H21 年度)	目 標 (H32 年度)
一般廃棄物最終処分量 (千トン)	(H20) 53.8	47.4
産業廃棄物最終処分量 (千トン)	(H20) 70.0	80.0

【図 2 ごみ排出量と一人 1 日当たりごみ排出量の推移】



### Ⅲ 生物多様性に支えられる自然共生社会の形成【生物多様性地域戦略】

野生動物との共生・希少野生動植物の保護により、人間と様々な生き物が共に暮らしていける社会の形成を目指します。

主な指標	現 状 (H21 年度)	目 標 (H32 年度)
大気や水がきれいに保たれ、 自然や野生動植物を大切に しながら生活することに満足 している県民の割合（％）	(H21 年調査) 35. 3	50. 0
生物多様性の認知度	—	75. 0
イヌワシ繁殖率（％）	12. 5	14. 0
自然公園ビジターセンター等 利用者数（人）	136, 031	550, 000

【表1 人身・農林業被害の発生状況】

年度	クマによる 人身被害		農業被害 (万円)			林業被害 (万円)	
	件数	人数	シカ	カモシカ	クマ	シカ	カモシカ
H21	14	15	15,393	1,172	4,391	2,053	1,662
H22	14	14	17,730	896	4,099	4,249	1,193
H23	16	18	15,652	567	4,739	188	137
H24	19	19	28,262	3,793	7,287	577	183
H25	7	11	29,128	1,729	5,466	633	125
H26	13	16	25,647	1,876	5,031	734	140

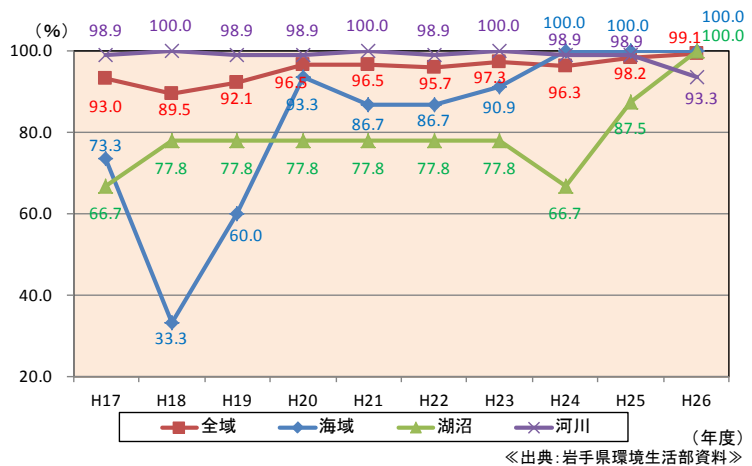
《出典：人身被害：岩手県環境生活部資料、農林業被害：岩手県農林水産部資料》

## IV 安全で安心できる環境の確保

澄んだ大気や水等の良好な環境を確保します。

主な指標	現 状 (H21 年度)	目 標 (H32 年度)
大気の二酸化窒素等環境基準達成率 (%)	100	100
公共用水域のBOD等環境基準達成率 (%)	96.5	96.5

【図3 BOD (又はCOD) の環境基準達成率の推移



## V 快適でうるおいのある環境の創造

緑豊かな公共空間や美しい景観、歴史的文化的環境等の保全と創造に取り組めます。

主な指標	現 状 (H21 年度)	目 標 (H32 年度)
本県の歴史遺産や伝統文化に誇りや愛着を持つ県民の割合 (%)	(H21 年調査) 59.3	70.0

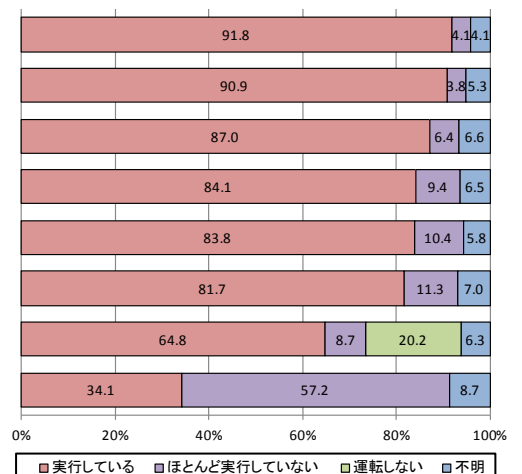
## VI 環境を守り育てる人材の育成と協働活動の推進【環境教育等行動計画】

多様な主体の連携・協働により、環境学習の推進、県民・企業の環境に配慮した行動を促進します。

主な指標	現 状 (H21 年度)	目 標 (H32 年度)
省エネ活動を実施している県民の割合 (%)	(H22 年調査) 82.3	87.5
環境学習交流センター利用者数 (万人)	3.7	4.2
環境報告書作成企業数 (企業)	—	220

【図4 環境保全のための行動内容】

- ① 不要なときはテレビや照明などのスイッチを切る
- ② 食事は残さず食べるなど、生ごみを減らす
- ③ 詰め替え用洗剤や古紙を再利用した紙製品など環境に配慮した商品を利用する
- ④ 火力調整を行うなど省エネを心がけて調理する
- ⑤ 洗顔や食器洗いのときに水を流したままにしない
- ⑥ 冷暖房時の室温は適切な温度に設定している (冷房時28℃以上、暖房時20℃以下)
- ⑦ 自動車を運転するときに、少し緩やかな発信や、加減速の少ない運転など燃費向上を心がけている
- ⑧ 外出はできるだけ自動車の利用を控え、自転車や公共交通機関を利用する

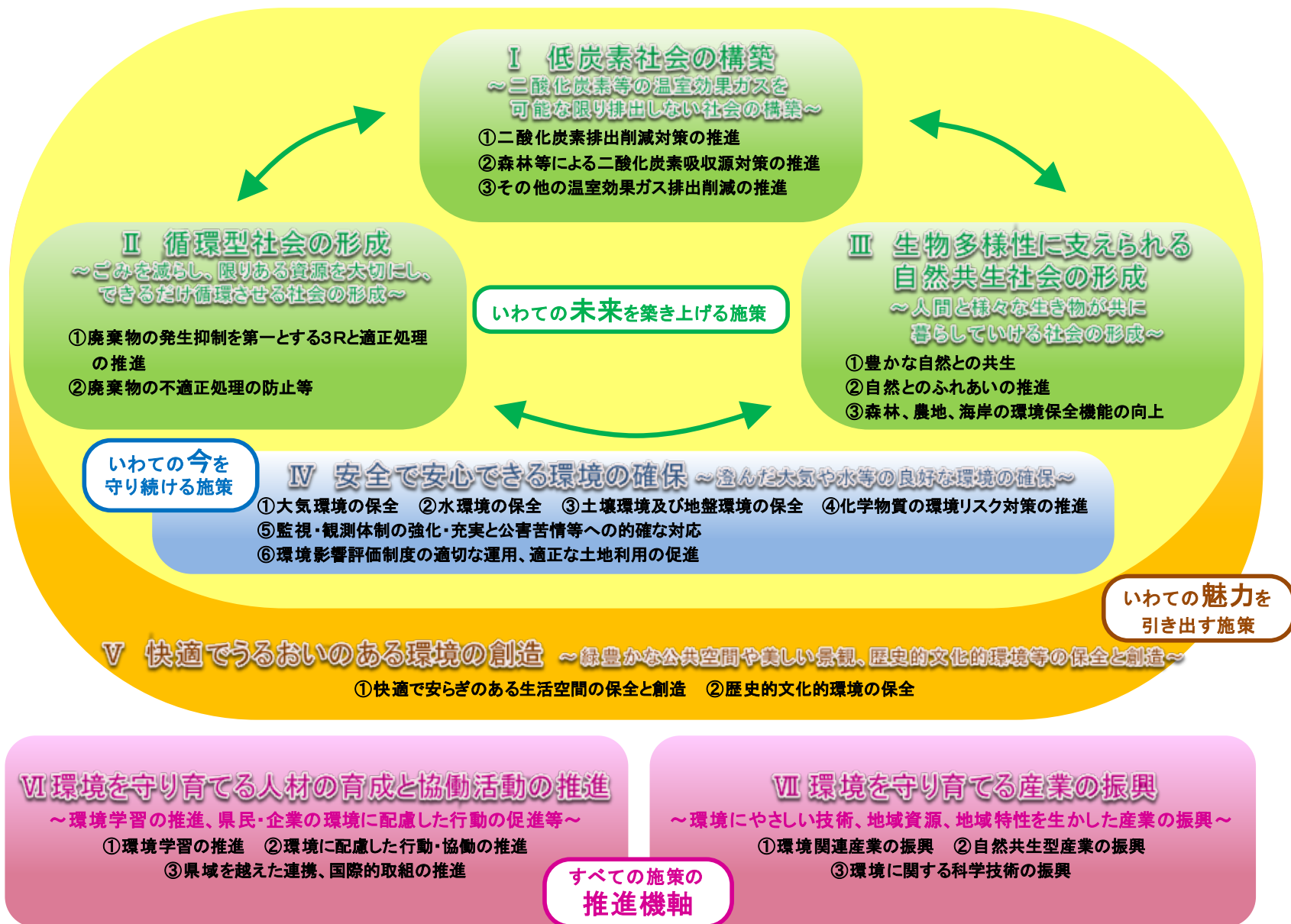


## VII 環境を守り育てる産業の振興

環境にやさしい技術、地域資源、地域特性を生かした産業の振興に取り組めます。

主な指標	現 状 (H21 年度)	目 標 (H32 年度)
自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農地面積 (ha)	(H26) 2,428	6,000

# 基本目標 みんなの力で次代へ引き継ぐいわての「ゆたかさ」の実現に向けた施策体系



## 協働の具体的な姿を示す「県民等との協働プログラム」（参考資料）

この計画では、「県民等との協働プログラム」を設定し、県と各主体との協働の具体的な姿を明示するとともに、県民等への情報提供等を行い、連携・協働を推進することとしています。

施策の方向	県民等との協働プログラム
I 低炭素社会の構築	◆いわて型エコライフ推進プログラム
II 循環型社会の形成	◆「もったいない」からはじめる「いわて3R推進」プログラム
III 生物多様性に支えられる自然共生社会の形成	◆いわての希少野生生物との共生プログラム ◆早池峰地域保全対策プログラム ◆いわての身近ないきものにぎわいプログラム ◆いわての森林づくり推進プログラム
IV 安全で安心できる環境の確保	◆北上川清流化・松尾鉱山跡地再生プログラム
V 快適でうおいのある環境の創造	◆美しいまちづくり推進プログラム
VI 環境を守り育てる人材の育成と協働活動の推進	◆環境学習応援プログラム

## プログラムの取組例

### ◆いわて型エコライフ推進プログラム

家庭において、従来の省エネ型のエコライフにとどまらず、エネルギー効率の高い高断熱住宅への改修や、太陽光発電・木質バイオマスエネルギー等の再生可能エネルギーの活用を促進することにより、快適な暮らしと二酸化炭素排出量の大幅な削減を目指した「いわて型エコライフ」の普及を進めていきます。

県民等の取組	事業者等の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的なエコライフの実践（適切な冷暖房温度、待機電力の解消、節水など）</li> <li>○省エネ型家電・製品、高効率機器の利用</li> <li>○断熱効果の高い住宅の建築・改修</li> <li>○エコドライブの実践、公共交通機関の利用</li> <li>○次世代自動車等の環境対応車の利用</li> <li>○住宅への再生可能エネルギーによる発電、冷暖房・給湯機器の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境にやさしい商品、省エネ型機器等の開発・製造</li> <li>○ポイント制度など、消費者の省エネに向けた取組を促す仕組みづくり</li> <li>○高断熱住宅・アパートの建築・販売</li> <li>○省エネ性能等に優れた住宅の普及</li> <li>○再生可能エネルギー利用機器の開発・製造、販売</li> <li>○事業活動におけるグリーン電力等の利用</li> </ul>

### ◆「もったいない」からはじめる「いわて3R推進」プログラム

県民、事業者、NPO、市町村、県等みんなが力を合わせて、「もったいない」という古くからの知恵に即した3Rに取り組み、廃棄物の発生が抑制された3Rが定着した循環型社会の形成を目指します。

県民等の取組	事業者等の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「3マイ[＝マイ箸・マイバッグ・マイボトル持参]運動」、牛乳パック等の店頭回収への協力、食べ残し・調理残しの削減など</li> <li>○「エコショップいわて」認定店等のごみの減量やリサイクルに取り組む店舗の利用</li> <li>○「岩手県再生資源利用認定製品」等のリサイクル製品やエコマーク認定商品等の利用</li> <li>○ごみの分別その他の市町村の排出ルールへの遵守</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小売店における事業者自身及び消費活動を通じたごみの発生抑制とリサイクルの促進</li> <li>○省資源・少廃棄、リサイクルしやすいなどの環境に配慮した製品づくりや企業内・企業間等のゼロエミッション化等の3Rの取組</li> <li>○リサイクル製品の開発、製造、販売</li> <li>○事業者間、地域間、事業者・地域間における資源の循環の仕組みの構築</li> </ul>

### ◆早池峰地域保全対策プログラム

山岳・自然保護関係団体、観光業団体等の民間団体、報道機関、グリーンボランティア、関係行政機関が連携し、携帯トイレの普及をはじめ様々な取組を全国の山岳保全のモデルケースとして推進することにより、早池峰地域の優れた自然環境を次世代に引き継いでいくことを目指します。

県民等の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○マナーの遵守（登山道からはみ出さない、植物をけかない、植物を採取しない、ゴミを持ち帰る、靴底の泥を落としてから登る、ペットと一緒に登らない）</li> <li>○登山口トイレの使用 踏み付</li> <li>○携帯トイレの持参、持ち帰り</li> <li>○車両交通規制への理解、協力</li> <li>○シャトルバスの利用</li> </ul>

## ■ 計画の構成

環境政策の推進に係る七つの施策領域ごとに、それぞれ施策の柱立てを行っていますが、個々の施策領域に応じた役割や互いの関連性により、次のような四つのグループに分類し、施策を推進していきます。

### 『いわての未来を築き上げる施策』

持続的発展が可能な社会を構築する上で欠くことのできない、「Ⅰ 低炭素社会の構築」、「Ⅱ 循環型社会の形成」、「Ⅲ 生物多様性に支えられる自然共生社会の形成」を本計画の中核をなす施策として掲げ、取り組んでいきます。

### 『いわての今を守り続ける施策』

「Ⅳ 安全で安心できる環境の確保」を掲げ、本県の「ゆたかさ」の象徴ともなっている、澄んだ大気や水等の良好な環境の確保に取り組んでいきます。この施策は、上記の三つの社会を目指していく上での基礎づくりを行うものとなります。

### 『いわての魅力を引き出す施策』

本県の魅力向上につながる施策として、「Ⅴ 快適でうるおいのある環境の創造」を掲げ、美しい景観や歴史的文化的環境の保存や活用を図っていきます。

### 『すべての施策の推進機軸』

すべての施策の推進機軸として、「Ⅵ 環境を守り育てる人材の育成と協働活動の推進」と「Ⅶ 環境を守り育てる産業の振興」を掲げ、県内のあらゆる主体との連携と協働のもとに取組を進めるとともに、環境産業の振興等に着目した施策の展開を図ります。

## ■ 計画の推進・進行管理

各主体が計画の内容に理解を深め、環境に配慮した行動等を実践するとともに、相互に連携、協働していくことが重要であることから、県と各主体との協働の具体的な姿を示しながら、連携・協働の促進を図ります。

また、計画の目指す姿を分かりやすく県民へ伝えるとともに、PDCAサイクルに基づく検証※に資するため、指標を設定することとします。

※一部の指標については、不確実要素の介在等の理由から、目標とする到達点の提示のみにとどめます。

### 指標の設定

再掲を含め、88 指標を設定しています。

－ 問い合わせ先 －

### 岩手県環境生活部 環境生活企画室

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

TEL. 019-651-3111 (代表) 019-629-5329 (直通)

FAX. 019-629-5334

ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/>

e-mail AC0001@pref.iwate.jp